

PETボトル ユーザーの取り組み

アサヒ飲料

豊かな自然を守り、育み、次の世代へと引き継ぐこと。アサヒ飲料は、2030年までにプラスチック製容器包装の全重量の60%にリサイクルPET、植物由来の環境配慮素材などを使用すること、プラスチック製容器包装の重量削減すること、プラスチック以外の容器や新しい環境配慮素材の研究開発することの3つの目標を定めて推進しています。

伊藤園

これまでにボトル本体やラベル、キャップの軽量化によるプラスチック原料使用抑制に取り組んできました。加えて、使用済みのPETボトルを「資源」として有効利用していくため、2030年を目処に「お〜いお茶」ブランドで使用するすべてのPETボトルを『100%リサイクルPETボトル』に切り替えることを目指し、昨年6月より順次切り替えを開始しています。

麒麟ビバレッジ

キリングroupが掲げる「2027年までに日本国内におけるPET樹脂使用量の50%をリサイクル樹脂に」を含む「キリングroup プラスチックポリシー」のもと、麒麟ビバレッジでは、再生PET樹脂を100%使用した“R100ペットボトル”を2019年6月中旬より「麒麟 生茶デカフェ」に採用しています。「麒麟 午後の紅茶 おいしい無糖」の一部でも再生PET樹脂を使ったPETボトルを使用しています。

コカ・コーラ

コカ・コーラシステムでは、国内独自の環境目標「容器の2030年ビジョン」を設定し「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」の実現を目指した活動に取り組んでいます。現在までに、セブン&アイ・ホールディングスとの共同企画商品「一(はじめ)緑茶」や「い・ろ・は・す天然水」に、100%リサイクル素材のPETボトルを使用しています。

サントリーグループ

サントリーグループでは、2030年までにPETボトルの100%サステナブル化を目指しています。2011年には国内初のボトルtoボトルのリサイクルシステムを開発。2018年には「FtoPダイレクトリサイクル技術」を協栄産業(株)と共同開発し、石油由来のPETボトルと比較して約60%のCO²削減を可能にしました。2030年の目標に向けて、環境負荷の少ないPETボトルの製造をさらに推進してまいります。